



『地域との連携』

地域支援アドバイザー 櫛田 省吾

今年度は、須賀川市の幼稚園・保育園・こども園を中心に、多くの相談支援を行ってきました。主な相談内容は、「落ち着きがない」、「指示が伝わらない」、「友達への暴言・暴力」等です。また、保護者の方と面談をすることもありました。そのような時に我々が、大切にしていることをお伝えします。

① 保護者の方の「困り感は何か」を共有する

家庭では問題がなくても、幼稚園等で集団になると落ち着きがなくなるお子さんがいます。家庭では、こだわり等の育てにくさがあるか保護者の方に寄り添って、お話をお聞きします。

② 子どもの「できること」を見つける

保育参観をした後に、保育士の方とケース会議を行いますが、「わかること」・「できること」を話し合います。

言葉での指示が伝わりにくいお子さんには、教室環境の整え方、指示の出し方について工夫できないか話し合います。

③ 「関係機関と連携」する

相談依頼は、須賀川市の保健師の方からもあります。保健師と一緒に訪問することでお子さんの情報を共有し、必要があれば、相談支援事業所や医療機関などにつなげます。また、保護者の方へは、必要な情報を伝えています。

『カウンセリングとは』

スクールカウンセラー 富森 崇

「カウンセリング」とは臨床心理学の専門の知識や技術を持つカウンセラーと相談者が対話を通じて、相談者の抱える困りごとの解決をサポートするものです。本校でも児童生徒、保護者、教職員と対話をしながら、困りごとへのアドバイスをするだけでなく、それぞれの抱える問題に対する気づきを得たり、理解を深めたり、行動変容したりすることへの手助けをさせてもらっています。

日本人は「恥の文化」があり、自分のマイナス面などを話したり、相談したりすることには抵抗が強いところがありますが、カウンセリングはマイナス面だけでなく、今自分をもっと成長させたい時にも活用できます。



【ワンポイントアドバイス～コロナ禍のメンタルヘルス～】

コロナ禍が続き、感染への不安や感染させてしまうかもしれないという不安が日常化しています。「不安」というネガティブな感情の感じ方はそれぞれに違います。日本人は特に「同調圧力(周囲の多くの人と同じように考え行動するよう、暗黙のうちに強制すること)」が強いため、不安を共有することの難しさがあります。童謡詩人の金子みすゞの「みんな違って、みんないい」というように、お互いの不安の感じ方を受け入れ、励まし合い、違いを共有することができれば、相手を攻撃したり、自分を追い詰めたりすることはなくなりま



す。そのために日頃から自分の思いや気持ちを言葉にして、受け止めてもらえた・分かってもらえたという体験がある方が気持ちは強くなり、突き放されると余計に不安は増します。

☆令和3年度も多くの教育相談の申し込みがありました。今後も子どもの得意なこと、好きなこと、強みを生かし、気持ちに寄り添いながら問題解決に向けた方法には、どのようなものが考えられるのか、そしてどのように提案すればよいのか等について保護者の方や先生方と一緒に考えていきたいと思ひます。